

1) わが国の慢性透析療法の要約

日本透析医学会は、1968年から年に一回、全国の透析療法施設を対象に統計調査を行っている。この調査は二種類の調査から成り立っていて、一つは透析のベッド数、スタッフ数、患者数などの施設背景に関する調査（施設調査：シートⅠを使用）である。もう一つは1人1人の患者に関する調査（患者調査：シートⅡ、Ⅲ、Ⅳを使用）である。

2008年末の統計調査は全国の4,124施設を対象に実施され、4,072施設から回答が寄せられた。施設調査であるシートⅠの回収率は98.7%、患者調査に関する調査であるシートⅡ、Ⅲ、Ⅳも含めた回収率は96.2%になった。患者調査の回収率は2007年と比べ1.4%向上した。調査に協力賜った各施設のご好意に対し深甚なる感謝の意を呈したい。

これらの調査結果を集計した2008年末のわが国の慢性透析療法の現況を速報版として報告する。なお、この図説（速報）に掲載された患者数などは調整前段階のものであり、年末までに調整された数はCD-ROM版の資料で報告される。図説で解説される昨年度との比較は、全て昨年（速報）との比較であることをご理解頂きたい。

(1) わが国の慢性透析療法の要約（図表1）

施設数		4,072施設	(22施設増)	0.5%増
設備	パーシェントステーション	111,690台	(3,120台増)	2.9%増
能力	同時透析	110,360人	(2,906人増)	2.7%増
	最大収容能力	373,527人	(9,376人増)	2.6%増

慢性透析患者	282,622人	(7,503人増)
--------	----------	-----------

※慢性透析患者の総数は、シートⅠ患者総数欄の合計であり、治療方法別患者数の合計とは必ずしも一致しない。

人口100万対比	2,213.4人	(60.2人増)
----------	----------	----------

昼間	230,891人	(81.7%)
夜間	42,385人	(15.0%)
在宅血液	194人	(0.1%)
腹膜透析	9,157人	(3.2%)

導入患者数	37,671人	(762人増)	2.1%増
死亡患者数	26,901人	(1,664人増)	6.6%増

上記は施設調査による集計

	男性	女性	不詳	計
5年未満透析患者数	85,659	47,527	33	133,219 (49.0%)
5年以上10年未満透析患者数	41,777	26,371	2	68,150 (25.1%)
10年以上15年未満透析患者数	19,669	13,833	4	33,506 (12.3%)
15年以上20年未満透析患者数	9,538	7,622	0	17,160 (6.3%)
20年以上25年未満透析患者数	5,274	4,476	0	9,750 (3.6%)
25年以上透析患者数	5,539	4,428	0	9,967 (3.7%)

患者調査による集計

最長透析歴	40年8ヵ月
-------	--------

患者調査による集計

解説

今回の調査で回答された施設は4,072施設となり、前年度と比べ22施設（0.5%）増加した。

パーシェントステーションは111,690台であり、3,120台の増加であった。同時透析可能人数は110,360人で、最大収容能力は373,527人となった。施設の増加よりパーシェントステーションの増加の割合の方が2.9%と高く、施設の大型化が背景にある。

昼間透析の割合は81.7%で前年度より0.3%増加し、夜間透析は15.0%で0.2%減少した。夜間透析の減少は近年一定した傾向である。在宅血液透析患者は194人であり、2007年末より7人増加した。腹膜透析の患者数は9,157人で前年度の9,314人より157人減少し、割合も3.2%と2007年末より0.2%減少した。

20年以上透析患者数は19,717人で前年度と比べ993人増加し、全透析患者の中の割合で7.3%となり、前年度より0.2%増加し、長期透析患者の増加傾向が明らかである。最長透析歴は40年8ヵ月であった。